



CAMPUS GUIDE



札幌キャンパス生き物ガイド



北海道大学の札幌キャンパスは、大都市札幌の中心部にある広大な緑のオアシスとして、多くの札幌市民や観光客に親しまれています。

遠方の手稲山をバックに、キャンパスから望む広々とした農場とポプラ並木は、札幌の原風景といえるものです。キャンパスの北部には、開拓前の面影を残す森が広がり、巨木を多く含むことから「北太原始林」とも呼ばれています。多くの野生動植物が見られる貴重な環境となっており、2024年には環境省の「自然共生サイト」に認定されました。

このガイドブックでは、季節ごとにキャンパスを訪れて楽しむために、主な動植物を紹介します。



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



札幌キャンパスの見どころ

キャンパスにはいくつか見所となる場所があります。また、それらをつなぐ小道もあります。

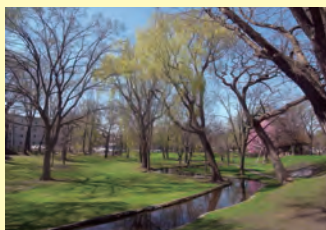
①インフォメーションセンター周辺

正門を入ってすぐ左手にあるインフォメーションセンターには、北大のゆかりのあるオオバナノエンレイソウやクロユリが植栽されています。また、直径1メートルを超えるハルニレが何本もあり、事務局前には新渡戸稲造氏のメアリー夫人が植栽したハルニレがそびえるように生えています。



②中央ローン

中心部に向かって低くなるすり鉢状の地形が残り、ハルニレやハンノキ、キハダなどの大木がまばらに生える広々とした園地です。南西側の一角に再生されたサクシュコトニ川の吐水口があり、そこから蛇行して流下していきます。



③農学部～エルムの森

樹冠を大きく広げたハルニレ（別名エルム）の大木がたくさん生え、春にはキバナノアマナの淡い黄色の花が足元に咲きます。農学部の本館や北大総合博物館などの歴史ある建物とよく調和し、キャンパスを象徴する景観となっています。



④サクシュコトニ川沿い

弓道場の東から中央道路を横切り、大野池の南をサクシュコトニ川が流れる区間は広葉樹に覆われ、川沿いには歩道や木道が整備されています。初夏から夏にはヒナを連れたオシドリが観察できます。



⑤大野池

1970年代に、工学部の教授だった大野氏が中心となって整備され、現在園地となっています。池に生育するスイレンは、その当時に植えられたものといわれています。また、水中にはミクリやヤナギモなどの水草が生育します。



⑥モデルバーン

札幌農学校時代の貴重な施設群が保存されています。その周辺は樹林が広がり、エゾエンゴサクやアズマイチゲなどの春植物が彩りを添えています。低温科学研究所の半自然林や獣医学部の人工林と一体となり、野鳥などの貴重な生息環境になっています。



⑦花木園・ポプラ並木

中央食堂から西に向かって行くと、花木園と呼ばれる庭園があります。園内には、クロユリ（道北産）をはじめ、道内外の植物が植栽されています。また、花木園の北西には有名なポプラ並木があり、背の高いポプラが一列に並ぶ様子を見ることができます。



⑧恵迪の森（北大原始林）

キャンパスの北部にある恵迪の森は半自然林で、遺跡保存庭園の森とつながっています。ハルニレやヤチダモ、イタヤカエデなどの広葉樹が多く、直径1メートル以上の大木も生育します。春のエゾエンゴサクやオオバノエンレイソウの群生は見事です。初夏になると林内は植物がうっそうと繁ります。この森には多様な野生生物が暮らしており、植物は260種以上が確認されています。



「生態保全緑地」(赤枠)

大学の管理方針で「開発行為を禁止し将来にわたり保全する」区画。歩道以外の部分への立ち入りは原則禁止としている。

↓詳しくはこちら



季節ごとの見どころ

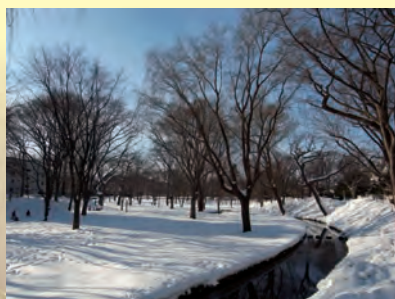
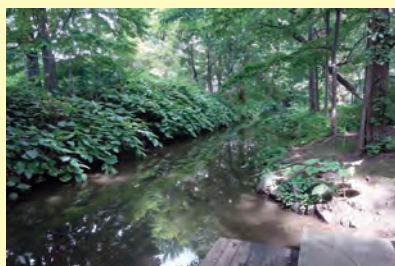
■**早春**：キャンパスに冬の名残の雪山がまだ残る頃から、次第に春植物が芽吹き、咲き出します。キャンパスでもっとも多い春植物はキバナノアマナです。恵迪の森では、このほか、エゾエンゴサクやアズマイチゲ、ニリンソウの群生が見られます。

■**春・初夏**：ハルニレやシラカバにはじまり、芽吹きが遅いイチヨウを最後に、次々と樹木が若葉を広げていきます。また、恵迪の森など自然林の林床では、オオバナノエンレイソウ、オオタチツボスミレ、オドリコソウなどが慌しく咲いていきますが、あっという間にオオハナウドが繁り、やがて白い花を咲かせます。柳絮（りゅうじょ）と呼ばれるポプラの綿毛が大量に舞うのも、初夏の北大の風物詩です。

■**夏**：キャンパスは緑に覆われ、中央ローンやポプラ並木などのスポットは多くの観光客で賑わいます。夏の日差しを受けた花にはさまざまなチョウやハナバチが観察できます。

■**秋**：キャンパスではナナカマドやカエデ類などの紅葉に加えて、初雪ごろに見られるイチヨウ並木の黄葉も鮮やかです。また、秋は実りの季節で、さまざまな樹木がこの時期に結実します。キャンパスにはオニグルミが多く自生し、結実するとエゾリスがやってきて房ごと切り取って運ぶ姿が観察できます。

■**冬**：雪に覆われたキャンパスには訪れる観光客もまばらですが、冬枯れのハルニレなどほかの季節にない自然の姿を見ることができます。また、中央道路から外れると、雪上にキタキツネの足跡が観察できたり、樹上にエゾリスの姿を見ることができます。



札幌キャンパスの自然の特徴

■キャンパスの自然環境の高い価値

広大な敷地に、ハルニレの巨木に代表される自然が残っています。札幌市中心部に近い市街地の中にあることが、その価値を一段と高めています。

キャンパスには多くの野生生物が生息します。これまでの調査で、植物 909 種（植栽を含む）、哺乳類 15 種、鳥類 143 種、両生類 4 種、魚類 5 種、昆虫 2156 種が確認されています。この中には、札幌農学校の時代から生き延びてきたものやその子孫が含まれています。



恵迪の森の植物群落（エゾエンゴサク）



エゾサンショウウオの卵のう



昆虫調査で確認されたキシタバ・ルリナガスネトビハムシ



■キャンパスにおける自然環境保全の取り組み

キャンパスの自然環境は、キャンパスの管理の基本方針をまとめた「キャンパスマスタープラン」において、大学だけでなく地域の資産として捉え、本来の姿のまま保全・再生することの重要性が示されています。

2004年に札幌市との協働で行われたサクシュコト二川の再生はその象徴的なものといえます。サクシュコト二川は通水から 20 年近くたった今も、変化を続け、多くの生き物を育てています。

1876年に札幌農学校として開学してから 150 年近い歴史を持つ北大は、これからも自然環境の高い価値を保てるよう、持続可能な発展を目指します。札幌キャンパスは、すぐれた自然環境と保全の取り組みが認められ、2024年3月に環境省の自然共生サイト（生物多様性の保全が図られている区域）に認定されました。



↑自然共生サイトについて



サクシュコト二川の導入水の噴出口と取り組みの紹介看板



キバナノアマナ

Gagea lutea



時期
4月下旬～
5月中旬

大きさ
10～20cm

キャンパスでもっともよく見られる野草の一つで、ハルニレ林の下で早春にエゾエンゴサク、アズマイチゲなどとともに咲いています。花は黄色です。春植物の一種で、初夏には地上部が枯れてしまいます。

アズマイチゲ

Anemone raddeana



時期
4月下旬～
5月中旬

大きさ
10～15cm

雪解け直後に花茎を伸ばし、白い花を一輪ずつ咲かせます。花茎の周りに根生葉をたくさん出し、群生します。春植物の一種で、初夏には地上部は枯れてしまいます。

エゾエンゴサク

Corydalis fumariifolia subsp. *azurea*



時期
4月下旬～
5月中旬

大きさ
10～20cm

春植物の一種で、雪どけから間もなく咲き始めます。花の色はふつう青ですが、うす紫やピンク、白などもあります。花は細長い筒状で、奥まった部分に蜜が隠されており、マルハナバチが訪花します。

ミズバショウ

Lysichiton camtschatcensis



時期
4月下旬～
5月中旬

大きさ
25～100cm

水辺に生育します。キャンパスのものは多くが植栽されたものですが、恵迪の森には自生もあります。花時は白い花びらのような仏炎苞が目立ち、花が終わると、へら状の葉が伸びて1m前後に達します。

オオタチツボスミレ

Viola kusanoana



時期
5月上旬～
5月下旬

大きさ
10～20cm

春にスミレ特有の形をした青紫色の花を付けます。花には距(きょ)と呼ばれる突起があり、ここに蜜を貯めています。花が咲き終わった後には、咲くことなく果実になる閉鎖花(へいさか)がつきます。

ニリンソウ

Anemone flaccida var. *flaccida*



時期
5月上旬～
5月下旬

大きさ
15～30cm

春植物の一種で、恵迪の森では大きな群落が見られます。白い花を二つずつ付けることからこの名前がありますが、北海道のものは全体に大きく、花を3つ付けるものも少なくありません。

クロユリ *Fritillaria camschatcensis* var. *camschatcensis*


時期
5月中旬～
6月上旬

大きさ
20～35cm

多年草で地下に白い球根があります。5～6月に黒褐色の花をつけますが、3倍体の植物のため全く結実しません。地上部は開花後しばらくして枯れてしまいます。キャンパスのものは多くが植栽されたものです。

オオバナノエンレイソウ *Trillium camschatcense*


時期
5月上旬～
6月上旬

大きさ
20～40cm



春を彩る代表的な林床植物の一つです。直立する莖の先に3枚の大きな葉と3枚の白い花びらを持つ花をつけます。キャンパスでは恵迪の森に自生します。北大の校章にもデザインされています。

オドリコソウ *Lamium album* var. *barbatum*


時期
5月中旬～
6月中旬

大きさ
30～60cm

キャンパスにもともと自生する植物で、ササが少なく、明るい林内を好みます。莖の断面は四角で、葉は規則的に向かい合って付きます。花は輪のようについて咲き、上の花びらは帽子のようになっています。

オオハナウド *Heracleum sphondylium* subsp. *montanum*


時期
5月下旬～
6月中旬

大きさ
70～150cm

キャンパスの森の中やふちに大きな群生が見られ、花が咲くと独特のおいぎが漂います。葉は大きく、3つに分かれます。初夏に白い小さな花がすき間なく集まって咲き、いろいろな昆虫が集まります。

オオウバユリ *Cardiocrinum cordatum* var. *glehnii*


時期
7月中旬～
8月上旬

大きさ
70～150cm

やや湿った林に生え、キャンパス内でも大きな群落があります。発芽してから数年かけて成長し、地下に球根が発達します。球根が十分大きくなったところで初めて莖を伸ばして花を咲かせます。

エゾサンザシ *Crataegus jozana*


時期
5月中旬～
6月上旬

大きさ
高さ 10～15m

絶滅危惧種に指定されている樹木です。成長は遅く、材質はとても堅くなります。6月頃に枝先に白い小さな花をまとめてつけ、結実すると黒紫色の液果になります。キャンパスには自生木がわずかに残存します。



ハルニレ

Ulmus davidiana var. *japonica*



時期

5月下旬～
6月上旬

大きさ

高さ 30m

北海道を代表する樹木の一つです。肥よくて湿った平地によく見られて成長は速く、キャンパスにも樹高30m、直径1mを超える大木が何本もあり、北大らしい景観となっています。

オニグルミ

Juglans mandshurica var. *sachalinensis*



時期

5月中旬～
6月上旬

大きさ

高さ 15m



湿った場所に見られる落葉樹です。葉は大きく、4～10対の小葉に分かれます。秋になると、大きな実をふさ状にたくさんつけます。エゾリスやアカネズミなどが好んで食べ、越冬用に貯食されます。

イタヤカエデ

Acer pictum



時期

5月下旬～
5月中旬

大きさ

高さ 25m

カエデの仲間、サクラが咲くころにうす黄色の花がふさになって咲きます。花が多い年には木全体にかすみがかかったように見えます。タネは大きな羽がついて、高いところから落とすと、くるくる回ります。

エゾコリンゴ

Malus baccata var. *mandshurica*



時期

5月中旬～
5月下旬

大きさ

高さ 8m

キャンパスに自生しますが、植栽されたものもあります。日当たりのよい場所では枝を密生させてブッシュになります。5月に木全体が白くなるほどたくさんの花を咲かせ、9月には小さな赤い丸い実となります。

ポプラ (セイヨウハコヤナギ)

Populus nigra



時期

5月下旬～
6月上旬

大きさ

高さ 30m

ポプラには多くの品種があり、樹形もほうき状になるものとならないものがあります。成長が速く、直径1mを超える大木になります。雌雄異株で、6月ごろにタネが熟し、綿毛が大量に放出されて空を舞います。

ニセアカシア (ハリエンジュ)

Robinia pseudoacacia



時期

6月上旬～
6月下旬

大きさ

高さ 25m

北米原産の外来樹で、公園や街路樹に植栽されています。根粒菌のおかげでやせ地でも成長は速く、横に伸びた根から萌芽してふえます。初夏によい香りがする白色の花をたくさん咲かせます。



オシドリ

Aix galericulata



時期
4月上旬～
10月下旬

大きさ
約 45 cm



カモの仲間で、繁殖期のオスは鮮やかな色になります。ふだんは水辺にいますが、ミズナラなどの大木のうろを使って巣づくりをします。キャンパスでも繁殖し、大野池で子育てしています。

マガモ

Anas platyrhynchos



時期
4月上旬～
11月下旬

大きさ
約 60 cm



水辺などでもっともよく見られる大型のカモで、オスとメスがまざった群れを作ります。秋以外の季節のオスは頭が緑色でよく目立ちます。キャンパスでも繁殖しています。

シジュウカラ

Parus minor



時期
一年中

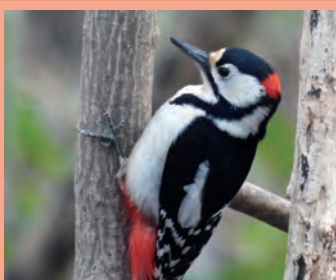
大きさ
約 14 cm



市街地の公園や森の中で見られるカラのなかまで、キャンパスでも子育てしていてよく見かけます。のどから胸にかけてネクタイのような黒いもようがあります。ツツピー、ツツピーとよく通る声で鳴きます。

アカゲラ

Dendrocopos major



時期
一年中

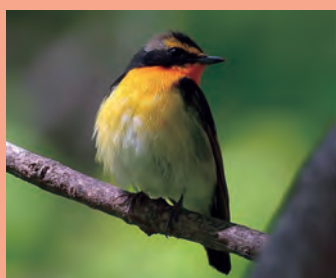
大きさ
約 24 cm



キャンパスの中でもキョッキョッキョと鳴きながら飛び回っている姿を見かけるキツツキです。幹をコツコツたたいたり、穴をあけたりして虫を食べています。初夏に幹にあけた巣穴の中で子育てをします。

キビタキ

Ficedula narcissina



時期
さえずり
5月～6月

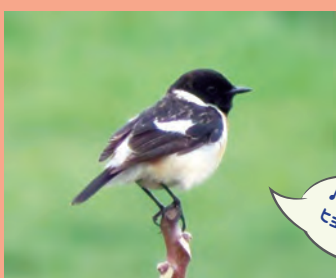
大きさ
約 13.5 cm



美しい姿とさえずりで知られる森の鳥です。オスは腹が黄色く、特にのど元が目立ちます。木の中ほどの枝によく止まり、飛んでいる虫をつかまえて食べます。「ホイヒー、オーシンツクツク」とさえずります。

ノビタキ

Saxicola torquata



時期
さえずり
5月～6月

大きさ
約 13 cm



開けた草原にすむ夏鳥で、キャンパスでは農場周辺などでよく見られます。オスは頭が黒くて腹が白く、胸にオレンジ色の模様があります。飛んでいる虫を空中でつかまえて食べます。



キアゲハ

Papilio machaon



時期
5月下旬～
9月下旬

大きさ
6～9cm

大型のチョウで、ハネは黄色地に黒の模様が入り、飛んでいる姿は優雅でよく目立ちます。幼虫は、セリ科植物の葉を食べて育ちます。キク科やマメ科などの花に止まって、蜜を吸います。

クジャクチョウ

Aglais io



時期
4月下旬～
9月下旬

大きさ
5～6cm

ハネにはクジャクの羽にあるような目玉模様があり、よく目立ちます。幼虫は黒色で長いトゲを持ち、イラクサ類などを食べて育ちます。8～9月に羽化し、成虫で越冬します。

エゾトラマルハナバチ

Bombus diversus



時期
5月中旬～
9月下旬

大きさ
1～2.5cm

マルハナバチの中でも特に長い舌を持っており、オドリコソウなどの筒形の花から蜜や花粉をとります。都市化や農地化で数が減っていますが、キャンパス内では少数が生息しています。

オニヤンマ

Anotogaster sieboldii



時期
7月中旬～
9月上旬

大きさ
7～9cm

大型のトンボで、とくにメスはオスよりも大きくなります。黒地に黄色の縞模様で、成熟個体の複眼は光沢のある緑色をしています。キャンパス内ではサクシユコト二川沿いなどで見られます。

ノシメトンボ

Sympetrum infuscatum



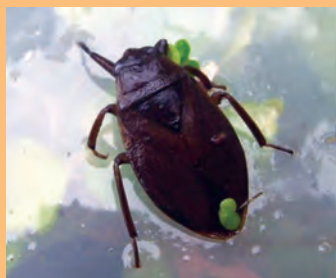
時期
7月上旬～
10月中旬

大きさ
4cm

夏から秋にかけてよく見られる赤とんぼの1種です。幼虫は池などに生息するヤゴです。成熟しても鮮やかな赤にはならず暗赤色になります。ハネの先端に黒っぽい模様があるのが特徴です。

オオコオイムシ

Appasus major



時期
4月下旬～
10月上旬

大きさ
2cm

カメムシの仲間で、水草の茂るため池や小川、水田の水中に生息しています。鎌のような前あしで貝や昆虫を捕らえ、針のような口で体液を吸います。メスはオスの背中に数十個の卵を産みつけます。



エゾリス

Sciurus vulgaris



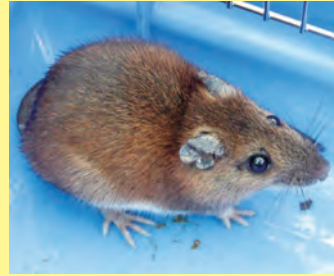
時期
一年中

大きさ
20 ~ 30cm

太くて長い尾を持つリスのなかまで、市街地の緑地にも生息しています。夏は濃い茶色をしています、冬は灰色に変わります。主に木の上で活動し、木の実や昆虫類などをえさとしています。

アカネズミ

Apodemus speciosus



時期
一年中

大きさ
8 ~ 14cm

長い尾を持ち、森の中でくらしている野ネズミです。昆虫類や木の実などをえさとし、冬も冬眠せずに秋に貯めた木の実で過ごします。特にクルミやドングリが好物です。

キタキツネ

Vulpes vulpes



時期
一年中

大きさ
60 ~ 75cm

市街地周辺でも見られ、長い尾が特徴です。主に夜に活動し、ネズミや昆虫、果実などを食べています。人にも感染するエキノコックスを保有していることがあるため、ふれたりしないよう注意が必要です。

トミヨ属淡水型

Pungitius sinensis



時期
4月上旬～
11月下旬

大きさ
4～5cm

小さな淡水魚で、流れのあまりないところにすんでいます。繁殖期になるとオスは、水底近くに水草などを使って巣を作り、メスを誘って産卵させます。稚魚が生まれると、オスは巣のそばにいて保護します。

エゾサンショウウオ

Hynobius retardatus



時期
5月下旬～
8月中旬

大きさ
14 ~ 19cm

幼生
(オタマジャクシ)

在来の両生類で、雪どけ直後の水辺に産卵し、エラのある幼生が生まれます。夏には上陸して、成体は森林で生活します。キャンパスでもわずかに生息している、市街地では貴重な生息地となっています。

エゾアカガエル

Rana pirica



時期
5月下旬～
8月上旬

大きさ
4～6cm

北海道在来のカエルです。雪どけ直後の水辺に産卵し、幼生(オタマジャクシ)時は水中で生活します。成体は森の中で見かけることもあります。市街地の緑地にも生息しますが、キャンパスでは希少です。

北海道大学 札幌キャンパス ～札幌中心部の市街地に浮かぶ緑の島～

◆生態環境保全管理方針◆

北海道大学では、キャンパスの自然環境の保全に努めており、独自の方針を定めています。この中で、将来にわたる保全地区として、恵迪の森、遺跡保存庭園、サクシュコトニ川周辺などを「生態保全緑地」に指定しています。

生態保全緑地では、歩道以外の部分への立ち入りは原則禁止としています（認められた調査研究を除く）。

生態保全緑地

遺跡保存庭園

恵迪の森

農場

工学部

大学病院

大野池

サクシュコトニ川

総合博物館

農学部

中央ロース

植物園

北海道大学札幌キャンパス生き物ガイド

2024年 4月発行

■発行：北海道大学サステナビリティ推進機構キャンパスマネジメント部門

■写真・解説：さっぽろ自然調査館

■写真協力：北大野鳥研究会

■監修：生態環境マネジメント WG

札幌キャンパスの
生きものを紹介する
サイトはこちら⇒

